

インターバンクの声（2014年12月18日）

想定以上の大幅かつ急速な原油価格の下落に、ロシア・ルーブルを中心とした BRICS や新興国通貨の大変動のみならず、主要通貨にも大きな調整が起こり始めたのがつい数日前。この相場展開がいま暫く継続するの否かの鍵の一つとなっていた米連邦公開市場委員会（FOMC）が日本時間の未明に終わった。文言の修正や削除が注目されていた声明文は、発表直後には混乱があったものの、事実上のゼロ金利政策を『相当な期間』続けるとの文言は残ったが、“金融政策の正常化に向けて『辛抱強く』あること”に置き換わったことがポイントのようだ。取り立てて大きな変化はなかったとの見方だが、市場は総じてこの結果を好感しているようだ。ニューヨーク・ダウは、前日から300ドル近く上昇、原油価格も値を戻している。再度115円台に向けての円の買い戻し調整が懸念されたドル円も118円台後半に戻している。何事も無かったように元に戻り始めているように見える市場だが、年末という相場が極端に薄くなる時期に入って来ているだけに、まだまだ油断はできない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。